



第7回ネリヤカナヤ創作童話コンクール

～ 奄美の小さな童話作家たち～

奄美群島復帰50周年を記念して創設された「ネリヤカナヤ創作童話コンクール」。県内でも類をみない、児童・生徒を対象とした創作童話コンクールで、県図書館協会奄美支部、大島地区教育委員会連絡協議会、大島教育事務所等との連携・協力のもと実施しています。

7回目を迎えました今回も、想像力豊かな、楽しい作品が集まりました。現在、入賞作品54編（最優秀賞7、優秀賞17、佳作30）全てを載せた受賞作品集を作成中。3月上旬には発行予定です。

コンクールの名前に使っている「ネリヤカナヤ（ニライ・カナイ）」とは、奄美に古くから伝わることばで、海の彼方にある理想郷を指します。悠久の時の中で、脈々と受け継がれてきた奄美の風土、文化に培われた豊かな感性を子どもたちの作品から感じることができます。その中のひとつを紹介しましょう。

わたしはえんぴつ
奄美市立小宿小学校 一年 ながた あやね

わたしは、さんかくのびんくいろのえんぴつ。じのれんしゅうをするためにうまれてきたの。わたしは、やさしくて、いねいにいっしょけんめいじをかいてくれるひとにかつてほしいなとおもいながら、ぶんぼうぐやさんとまっていたの。そうしたら、おおきなおおきなこわそうなおとこのひとが、わたしをれじにはこんだの。「えっ、こわいよう。だれかたすけて。」とおもったけれど、わたしはえんぴつ。おみせのひとにふくろにいれられて、おとこのひとにつれていかれたの。ケケケケケ、カエルのなきこえ。ザーツ、とおくからうみのおと。ここが、わたしのあたらしいいばしょ、おうちみたいだ。わたしはふくろからだされた。わたしをとりだしたては、このもあたたかいてだった。「うわあ、かわいい。はやくつかいたい。ぱぱ、ありがとう。」というおんなのこのこえがした。わたしは、このひから、あやねちゃんこのうひつづのれんしゅうをするえんぴつになった。

あやねちゃんは、まいにちいっしょけんめいこうひつづのれんしゅうをしていた。キョロキョロ、アカシヨウビンのなくあさも、ほしがふつてきそうなるも、ときどきままにおこられながら、いっしょけんめいわたしをつかってくれた。わたしのからだは、どんだんちいさくなってきた。わたしは、いっばいつかつてもらえてうれしかった。わたしのからだにてのあせをつけて、あつくなるくらいにぎりしめてがんばるあやねちゃん。わたしもあやねちゃんのじがじょうずになるようにがんばった。

ゴーツ。ガジュマルのきをゆすりながら、あめがじめんをたたきつけるおとがする。とつぜん、わたしは、つくえのひきだしに、ほつりこまれた。わたしがみじかくなつたから、つかいにくくなつてほつりこまれたのだ。わたしはかなしかった。いたかった。もうわたしは、あやねちゃんに「いらぬい」といわれたのとおなじなのだ。からだもいたかった。こころもいた



大型紙芝居「わたしはえんぴつ」



大型紙芝居「さすらいのハブジロー」

かつた。くらいなかでうずくまっていた。かなしかった。どしやぶりのあめのおとだけがきこえてきた。

なんにちかたつたあるひ、ふわり、やさしいひかりにつつまれた。あやねちゃんがみえた。あやねちゃんがわたしになにかをかぶせた。それは、きいろのかわいいキャップだった。わたしのしんちようは、ぐんとびた。はじめてつかつてくれたときよりもつよく、あやねちゃんは、にぎりしめてくれた。またいっしょにがんばれる。わたしにもちからがわいてきた。

きみどりのくるくるまいていたそてつのはっぱも、こいみどりになり、びんとちからづよくひらいている。いまでは、わたしのしんちようは、あやねちゃんのてのひらにすっぽりはいるくらいちいさくなつた。もうすぐわたしは、キャップをしてもつかえなくなる。でも、わたしは、ありがとうというきもちでいっばい。わたしのからがなくなつても、わたしは、あやねちゃんのじのなかでいきている。だつていっしょにがんばつたんだもん。さいごまでたいせつにつかつてくれて、ありがとう。きょうも、やまのみどりが、キラキラかがやいている。

入賞作品は、図書館ボランティアの協力のもと、大型紙芝居やパネルシアター、人形劇にし、貸出をしています。また、応募作品の全ては奄美図書館で大切に保管しています。これらの作品は読み継がれて、きっと奄美の大切な宝物となるでしょう。

豊かな風土、自然に抱かれて育った子どもたちの創作童話は、小さな小さな文化創成の芽吹きです。奄美の地に芽吹いた、小さな文化の花。これからどのように成長していくか楽しみです。

まもなく刊行いたします「第7回ネリヤカナヤ創作童話コンクール受賞作品集」は広く県民に貸し出します。ぜひ、一度手に取って、開いてみてください。きっと、夢とロマンにあふれた奄美の風を感じることができると思います。



ネリヤカナヤ創作童話コンクールから絵本が誕生！

昨年度のネリヤカナヤ創作童話コンクールの最優秀賞受賞作品の中から、一冊の絵本が誕生しました。奄美市立赤木名小学校5年生の泊 愛永さんが書いた「君がくれた時間」です。絵も全て泊さんが描きました。

作家の出水沢藍子氏や「かぎん文化財団」等、たくさんの方々の御協力のもと、完成したこの絵本は、県立図書館や奄美群島内の公立図書館（図書室）、奄美群島内の小学校に配布しました。ぜひ、お読みください。



『君がくれた時間』

泊 愛永さん 作 / 絵

連絡先 県立奄美図書館 奄美市名瀬古田町 1 - 1
電話 0997 (52) 0244